

テンス・アスペクト

竹 田 晃 子

1 本稿の目的

本稿は、2005年・2006年・2007年に行われた気仙沼市・南三陸地方における方言調査のうち、調査票の作成を筆者が担当したテンス・アスペクトとその周辺形式ケについて報告するものである。

2005年は気仙沼市の高年層2名を対象に、筆者が面接調査を行った。2006年は気仙沼市の高年層から高校生までの74名を対象に、2007年は南三陸地域における80代から20代の41名を対象に、筆者を含む調査者が分担して面接調査を行った。

本稿では、2005年の伝統的気仙沼市方言の記述調査、2006年の気仙沼市における多人数調査、2007年の南三陸地方における分布調査の順に、調査結果を報告する。なお、調査における回答の表記について、注目する部分をカタカナ（下線付き）で示し、その共通語訳を文の後に（ ）に入れて示す。また、それ以外の部分は漢字ひらがな交じりで示す。

2 伝統的方言の記述調査

2.1 調査の概要

2005年の記述調査では、宮城県沿岸北部に位置する気仙沼市の伝統的方言におけるテンス・アスペクトとその周辺形式ケを把握し、特徴を明らかにすることを目的として調査を行った。特に、動詞+タッタ、動詞+テタの促音化語形（動詞+ツタ）、文末形式のケの用法を確認することを目的とした調査票を用意した。共通語例文を当該方言に翻訳し、実際に発音してもらう方法で行い、場合によって予想語形を提示し、使用の有無や使い分けをたずねた。

話者は、2005年・記述調査については次のとおり、〔1931女〕〔1933男〕の高年層2名である。お二人の回答はほぼ同様であったため、本稿では特に分けて扱わない。

生年	性別	年齢	言語形成期	調査年月日
1931(昭和6)年	女	74	気仙沼市階上	2005年7月31日午後
1933(昭和8)年	男	73	気仙沼市大島	2005年7月30日午後

2.2 運動動詞の用法

2.2.1 完成・過去

運動動詞の完動的な過去の出来事は、動詞+タッタ（カイトッタ）、動詞+タ（カイト）で表され

るのが基本である。

(1) 私は昨日、あの人にお礼状を カイトッタ / カイト。(書いた)

動詞+タッタは、原型は動詞+テアッタだが、現在の気仙沼市方言においては完成的な過去の出来事に用いられ、かつ次のような回想的な表現で、動詞+タツケ(イッタツケ)と併用で回答される。

(2) 昔、二人でお祭りに イッタッタ / イッタツケ なー。(行った)

動詞+ケ(イグツケ)は、たとえば(3)のように話し手が何度も目撃して知っている恒常的な出来事を表す場合や、(4)のように発話の直前に目撃した出来事から引き続き起こるだろうと思われる出来事について発話現場とは異なる場所で発話時に起こっている出来事として表す場合に用いられる。どちらの場合も、話し手自身が見たことがないことを想像して言う場合や、自分自身のことについて言う場合は用いられない。

(3) 隣の子はいつも近所の子供たちと一緒に小学校に イグツケ。(行く)

(4) (隣の子が学校に出かける様子を見て家に入っすぐ) 隣の子はこれから学校に イグツケよ。(行く) お前もはやく行きなさい。

2.2.2 継続・過去

運動動詞の継続的な過去の出来事は、動詞+テタ(カイトタ)、動詞+テタッタ(カイトタッタ)が用いられる。動詞+テタは現在の出来事に用いられることもあるため、動詞+テタッタのほうが出来事としてより過去らしい表現である。

(5) 昨日の夕方は、私は あの人へのお礼状を カイデダ / カイツタ / カイデダッタ / カイツタッタ。(書いていた)

動詞+テタは動詞+テタ/ッタ、動詞+テタッタは動詞+テタッタ/ッタッタのように発音される場合があるが、意味の違いはない。

2.2.3 継続・現在

運動動詞の継続的な現在の出来事は、動詞+テタ(カイトタ/カイツタ)、動詞+テル(カイトル)が用いられる。動詞+テタは前述のように過去の継続的な出来事にも用いられるが、時間副詞「今」や文脈によって、その出来事が現在であることが明示される。

(6) 私は今、あの人へのお礼状を カイデダ / カイツタ / カイトル。(書いている)

2.3 存在動詞イルの用法

2.3.1 継続・過去

存在動詞の継続的な過去の出来事は、一人称の場合、動詞+タ(イタ)、動詞+タッタ(イタッタ)で表される。

(7) 私はさっきまで、学校に イダ / イダッタ。(いた)

二人称・三人称では、(8)のように動詞+タツケ/タッタツケが用いられることがある。ケは、

話し手が目撃した出来事を表すため、一人称の文では用いられにくい。用いられる場合は、(9)のような疑問文の場合である。

(8) お前はさっきまで、学校に イダッケ/イダッタッケ。(いた)

(9) 私もさっきまで、学校にイダッケ/イダッタッケ? (いたか?)

2.3.1 継続・現在

存在動詞イルの継続的な現在の出来事には、一人称の場合、動詞+タ (イタ) か、動詞イルがそのまま用いられる。

(10) 私は今、学校に イダ/イル。(いる)

二人称・三人称では、(11)のように動詞+タッケ (イタッケ) が用いられることがある。ケが話し手の目撃による出来事を表す点、一人称の文では用いられにくい点については前述の通りである。

(11) 斉藤さんは今、公民館にイダ/イダッケ/イル。(いる)

2.4 形容詞

形容詞による過去の出来事については、形容詞+タで表される。

(12) あの人はずいぶん相撲が ツヨガッタ。(強かった)

形容詞+ケは、たとえば(13)では、話し手が相撲の試合を見たことを根拠に、現在もその人は強いということを表す文になる。

(13) あの人はずいぶん相撲が ツヨイッケ。(強い)

現在の出来事については、たとえば(14)ではタカイが用いられる。

(14) 近所の店では今も時々、品物の値段が タガイ。(高い)

3 多人数調査

3.1 調査の概要

2006年は、気仙沼市の高年層から高校生までの74名を対象に、過去・回想、現在・継続、反語・未実現表現で用いられる形式を明らかにする目的で、次の例文の面接調査を行った。

(15) 昔、私は千葉県の九十九里浜に行ったなあ。(過去・回想表現) : 表1

(16) 私は今、あの人へのお礼状を書いているの。(現在・継続表現) : 表2

(17) そんな大変なこと、誰がやるものか。(反語・未実現表現) : 表3

3.2 調査結果

調査結果を生年順に記号化し、表1・表2・表3にまとめた。性差よりも年齢差が大きいため、表は生年によってまとめた。NRは無回答、すべて空欄の話者には別回答があるが回答数が少ないため、ここでは省略した。

表1は、過去の出来事を回想する場合である。ほぼ全年層に動詞+タッタ（イッタッタ）ナーが回答された。年齢差は、[1979 女]以下の若い年層において動詞+タッタが回答されなかった話者があり、若い年層で使われにくくなっていると思われる。動詞+タツケ（イッタツケ）ナーは、全年層に点在しているが、動詞+タッタツケ（イッタッタツケ）は30代以上に5名、回答があった。

表2は、現在、継続している出来事を表す場合である。[1988 男]以下の高校生のほとんどが動詞+テル（カイテル）を回答した。これに対して、高年層のほとんどが動詞+ッタ（カイツタ）または動詞+テタ（カイデタ）を回答している。この動詞+ッタの使用者は、年層を問わず男性に多いという傾向がある。

表3は、未実現の出来事を反語的に表現する場合である。動詞+ケ（ヤツケ）または動詞+ダツケ（ヤンダツケ）の形は、ほぼすべての年代で用いられており、一般的な形式であることがわかる。ただし、一部の話者からは「男性語である」との内省が得られた。男女差をみると男性70%（23/33名）、女性48%（18/37名）となり、男性の回答率が高いため、男性語的なくだけた表現とみることができるだろう。動詞+モンカ（ヤルモンカ）は、高年層に3名と、[1984 女]以下に7名の回答がある。動詞+ペ/ベ（ヤッペ/ヤンベ）は高年層・中年層に10名、動詞+カ（ヤッカ）は若い年層に14名の回答がある。

表1 気仙沼市方言・多人数調査における過去・回想

	生年 性別	タ	タッタ	タツケ	タッタ ツケ		生年 性別	タ	タッタ	タツケ	タッタ ツケ
60代	1926 男	△	▲	◎		30代	1964 女	△			
	1927 女		▲				1967 女		▲		
	1928 男		▲	◎	■		1969 女		▲		
	1930 女		▲				1972 女		▲	◎	■
	1930 男		▲				1975 男		▲		
	1931 男	△	▲	◎			1976 女	△			
	1933 男		▲				1976 女	△	▲		
	1935 男	NR	NR	NR	NR		1979 女	△		◎	
	1938 女	△	▲				1980 男		▲		
	1938 女	△	▲	◎			1982 男	△			
50代	1938 男	△	▲			1983 女	△	▲			
	1939 女	△	▲			1984 女	△	▲	◎		
	1940 男		▲	◎		1984 女	△				
	1940 男	△	▲			1986 男	△	▲			
	1941 女	△	▲			1988 男	△				
	1942 女		▲	◎	■	1989 女	NR	NR	NR	NR	
	1942 女		▲			1989 女	△	▲			
	1942 女	△	▲	◎		1989 女	△	▲	◎		
	1943 男		▲			1989 女		▲			
	1943 男	△	▲			1989 女	△				
40代	1943 男		▲			1989 女	△				
	1945 女		▲			1989 女	△	▲			
	1947 男	△	▲	◎		1989 女		▲	◎		
	1948 男	△				1989 男	△	▲			
	1948 男		▲			1989 男	△	▲			
	1949 女	△	▲			1989 男			◎		
	1950 女	△	▲			1989 男		▲			
	1950 女		▲		■	1989 男		▲			
	1950 女		▲			1989 男	△	▲			
	1951 女			◎		1989 男	△				
10代	1953 男		▲			1989 男	△	▲			
	1955 男		▲	◎		1990 女		▲	◎		
	1956 女		▲	◎		1990 女	△	▲			
	1956 男		▲								
	1956 男		▲								
	1956 男		▲								

表2 気仙沼市方言・多人数調査における現在・継続

	生年 性別	テル	テタ	ッタ		生年 性別	テル	テタ	ッタ
60代	1926 男		◆		30代	1964 女	○		
	1927 女		◆	▼		1967 女		◆	▼
	1928 男			▼		1969 女			
	1930 女	○	◆	▼		1972 女	○	◆	▼
	1930 男			▼		1975 男		◆	▼
	1931 男		◆	▼		1976 女		◆	
	1933 男	○		▼		1976 女	○		
	1935 男	○		▼		1979 女	○		
	1938 女	○				1980 男			▼
	1938 女		◆	▼		1982 男	○		▼
1938 男				1983 女	○		▼		
1939 女				1984 女		◆			
1940 男	○	◆	▼	1984 女	○				
1940 男	○		▼	1986 男		◆	▼		
1941 女		◆	▼	20代	1988 男			▼	
1942 女	○				1989 女	○			
1942 女			▼		1989 女	○			
1942 女		◆	▼		1989 女	○	◆		
1943 男		◆	▼		1989 女			▼	
1943 男	○		▼		1989 女	○			
1943 男	○		▼		1989 女	○	◆		
1945 女			▼		1989 女	○		▼	
1947 男	○		▼		1989 女	○		▼	
1948 男			▼		1989 男	○		▼	
1948 男	○		▼	1989 男			▼		
1949 女	○			1989 男	○				
1950 女	○	◆		1989 男	○				
1950 女	○			1989 男	○				
1950 女	○		▼	1989 男	○				
1950 女	○		▼	1989 男	○				
1951 女		◆	▼	1989 男	○	◆			
1953 男	○		▼	1989 男			▼		
1955 男	○	◆	▼	1990 女	○				
1956 女	○	◆		10代	1990 女	○			
1956 男	○		▼						
40代	1956 男	○		▼					

表3 気仙沼市方言・多人数調査における反語・未実現

生年 性別	ヤツケ ▲/ ヤンダ ツケ△	ヤル モン カ	ヤッ ペ/ ヤン ベ	ヤッカ /スッ カ	ヤラ ネ
1926 男	▲			■	
1927 女	▲		○		
1928 男	▲	◇			
1930 女			○		
1930 男	▲		○		
1931 男	▲				
60代 1933 男	▲△		○		
1935 男	△	◇			
1938 女			○		
1938 女	▲				
1938 男			○		/
1939 女		◇			/
1940 男	▲				
1940 男				■	
1941 女	▲				
1942 女	▲		○		
1942 女				■	
1942 女					
1943 男	▲				/
1943 男	▲△		○		
1943 男	△				
50代 1945 女	▲				
1947 男	▲				
1948 男					/
1948 男	▲				
1949 女					
1950 女	NR	NR	NR	NR	NR
1950 女	NR	NR	NR	NR	NR
1950 女			○		
1950 女	▲				
1951 女	▲				
1953 男	▲				/
1955 男	▲				
1956 女	▲		○		
1956 男	▲				
40代 1956 男	▲△				
1964 女	NR	NR	NR	NR	NR
1967 女					/
1969 女	▲				
1972 女	▲				/
1975 男					/
1976 女					
30代 1976 女				■	
1979 女				■	
1980 男	▲				
1982 男	▲			■	
1983 女	▲			■	
1984 女	▲				
1984 女		◇			/
20代 1986 男					/
1988 男				■	
1989 女	△			■	
1989 女	▲		○		
1989 女				■	
1989 女	▲	◇			
1989 女				■	
1989 女		◇		■	
1989 女				■	
1989 女	▲△				
1989 男		◇			
1989 男	▲				
1989 男				■	
1989 男	▲	◇			
1989 男	▲			■	
1989 男	▲			■	
1989 男	▲	◇			
1990 女	▲			■	
10代 1990 女	▲				

4 南三陸地方の分布調査

4.1 調査の概要

2007年は、南三陸地域における80代から20代の41名を対象に、次の例文による面接調査を行った。は多人数調査と同じ例文である。

(18) 昔、私は千葉県の九十九里浜に行ったなあ。(過去・回想表現)：図1

(19) 私は今、あの人へのお礼状を書いているの。(現在・継続表現)：図2

(20) そんな大変なこと、誰がやるものか。(反語・未実現表現)：図3

4.2 調査結果

本稿では、調査した話者のうち、生年が1919-1930年の話者を対象とし、20-30代の13名を除外して分布を考察する。それらの調査地点は、最北が岩手県下閉伊郡山田町、最南が宮城県石巻市となり、岩手県と宮城県の県境をはさむ26地点(話者28名)である。調査地点一覧図は「ヴォイス(可能・受身)」の図1を参照されたい。地点は次の通りである(番号は調査時に便宜的に付けられた地点番号をそのまま利用した)。

表4 南三陸地方 分布調査・調査地点一覧

岩手県	06	山田町山田	宮城県	22	気仙沼市二ノ浜
	05	大槌町小槌		24	気仙沼市大島
	01	遠野市中央		25	気仙沼市唐桑
	02	遠野市細越		27	気仙沼市常楽
	03	釜石市甲子		29	本吉町道貫
	04	釜石市浜町		31	本吉町津谷新明戸
	07	釜石市平田		33	南三陸町歌津
	08	釜石市唐丹		35	南三陸町志津川中瀬町
	09	三陸町吉浜		37	登米市柳津形沼
	10	三陸町越喜来		39	石巻市前谷地山崎
	11	三陸町綾里			
	12	大船渡市盛			
	18	陸前高田市曲松			
	20	陸前高田市小友			
	14	一関市千厩			
16	一関市折壁				

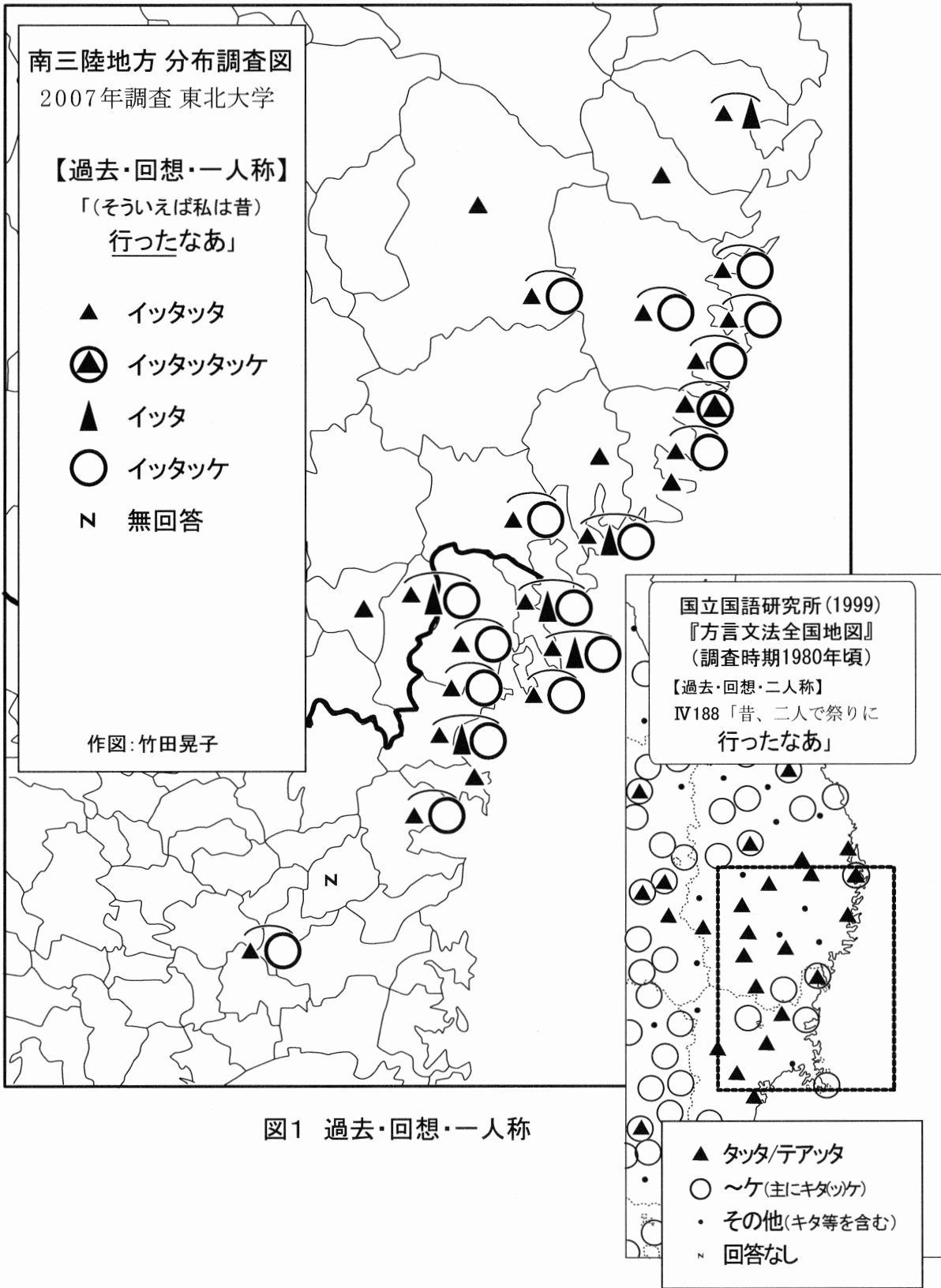


図1 過去・回想・一人称

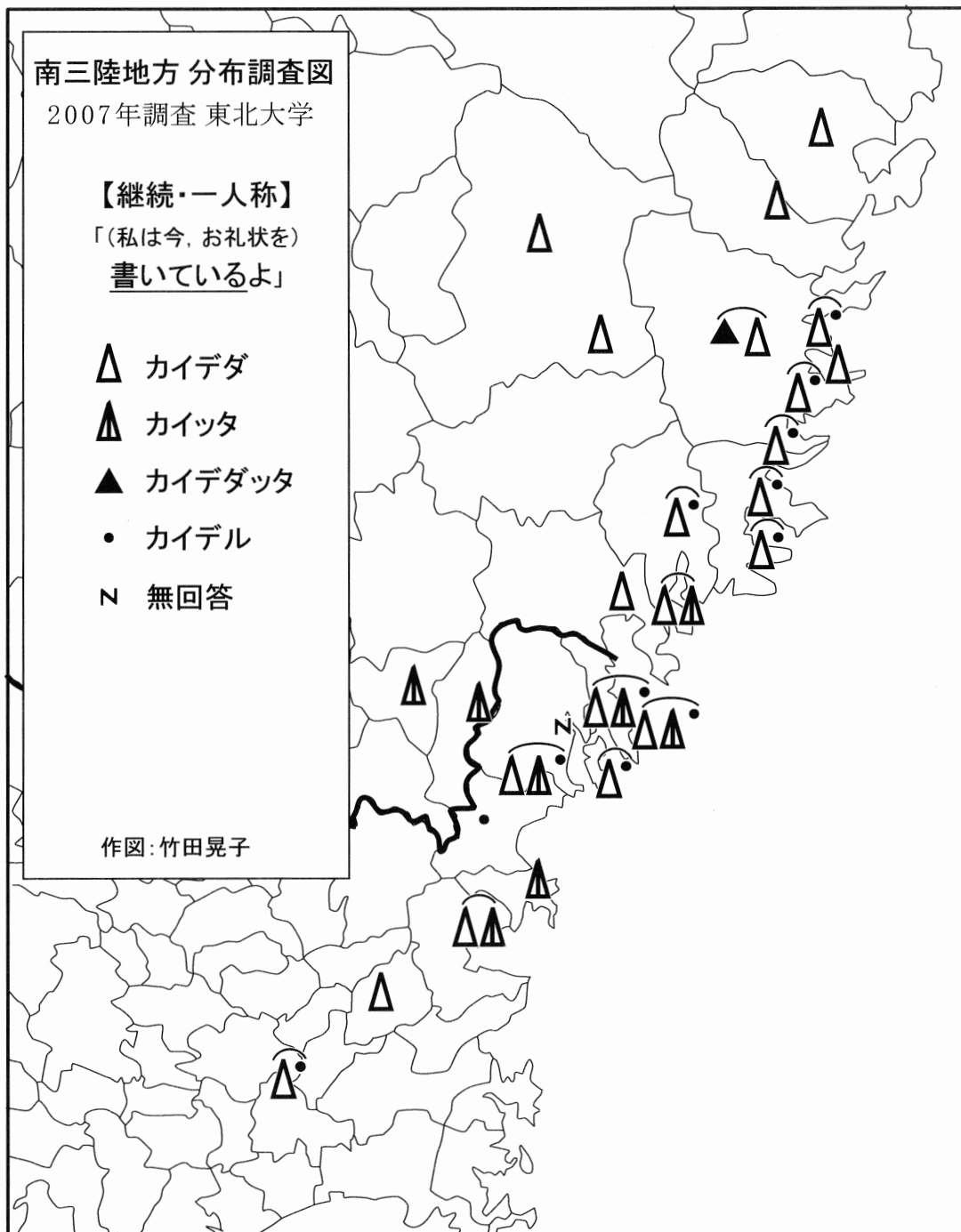


図2 継続・一人称

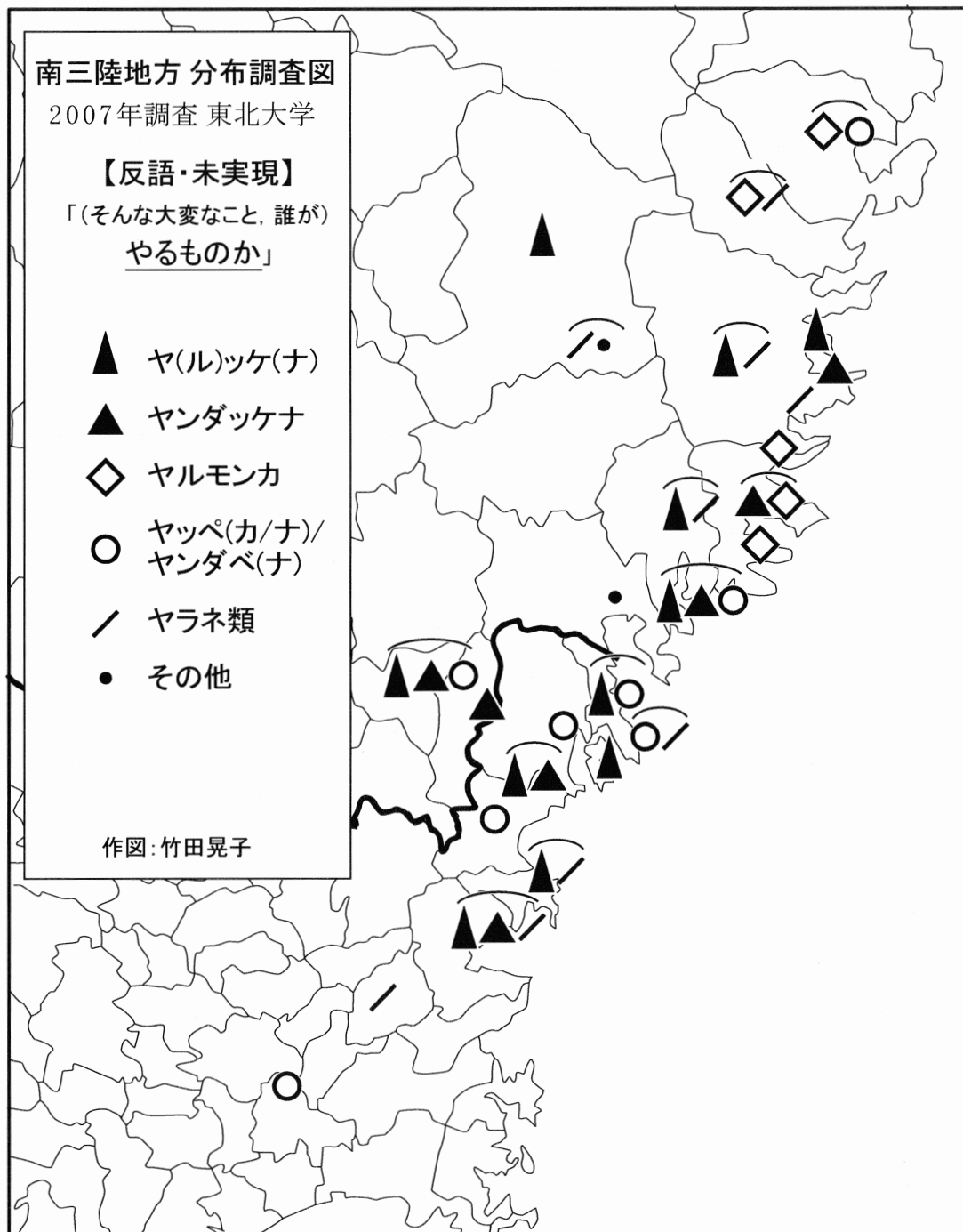


図3 反語・未実現

図1は、一人称による過去の出来事を回想する場合である。ほぼ全地点で動詞+タッタ（イッタッタ）が回答されており、基本的な形式であることがわかる。次いで多い回答が動詞+タツケ（イッタツケ）で、当該地域のやや真ん中から南に分布している。『方言文法全国地図』の二人称の例文と比べると、動詞+タッタはほぼ同じ分布だが、気仙沼市ではイッタツケのみが回答されている。

次の図2は、一人称による出来事が現在も継続している場合である。ほぼ全地点で動詞+テタ（カ

イデダ)が回答された。この促音化形式カイツタ(動詞+ツタ)は、岩手県・宮城県の県境をはさんで回答されている。この分布調査の話者のほとんどが男性である(男性22名・女性6名)。気仙沼市における多人数調査では、動詞+ツタの使用率は男性が高かったが、この分布調査でも同様の傾向があり、動詞+ツタが回答された8地点のうち女性の話者は1地点である。

図3は未実現の出来事の反語的表現である。岩手県側に動詞+モンカ(ヤルモンカ)が回答され、南部に動詞+ペ/ダベ(ナ)(ヤッペナ/ヤンダベナ)が比較的まとまって回答されている。岩手県・宮城県の県境をはさんで南北に動詞+ケ/ダッケ(ナ)(ヤッケナ/ヤンダッケナ)が回答されている。この形式は、気仙沼市の多人数調査ではほぼすべての年代で回答されており、基本的な形式であると考えられる。

5 おわりに

以上、気仙沼市における伝統的方言の記述、多人数調査の結果、南三陸町における分布調査の結果について報告した。

分布については、岩手県・宮城県の県境よりも旧南部藩・旧伊達藩の旧藩境のほうがややはっきり見える結果となった。旧伊達藩側には、図1では動詞+タツケの回答が多く、図2では動詞+ツタ、図3では動詞+ケが多かった。これらの形式が旧南部藩地域や旧伊達藩地域の内陸でどのような分布をもつか、今後の課題としたい。

文 献

国立国語研究所(1999)『方言文法全国地図』4, 財務省印刷局

竹田晃子・吉田雅昭(2000)「仙台市方言におけるテンス・アスペクト」小林隆編『宮城県仙台市方言の研究』

竹田晃子(2003)「石巻市方言におけるテンス・アスペクト—体系と属性差—」小林隆編『宮城県石巻市方言の研究』

竹田晃子(2003)「石巻市方言における可能表現」小林隆編『宮城県石巻市方言の研究』

竹田晃子(2004)「山形市方言におけるテンス・アスペクトと文末形式ケ」『国語学研究』第42集

竹田晃子(2011)「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究』